

研究の概要

助成年度・種別	2014年度 一般研究助成
研究代表者	廣末 登
所 属	NPO 市民塾 21
研究テーマ	社会病理集団離脱実態の研究
研究の概要 (助成申請書の要約)	<p>社会病理集団に関しては、昨今、官民一致して排除意識が高まっている。近年では、平成 23 年 6 月に、社会安全研究財団の「受刑者調査研究会」が行った暴力団受刑者に対する質問紙調査に基づく研究結果が発行されており、組織離脱の可能性を探る等暴力団の属性を多面的に分析した知見が提示されている。</p> <p>本研究では、こうした先行研究知見を参考としつつ、社会病理集団離脱者から口述データを収集する。研究の目的は、まず、「なぜ離脱したか」「いかに離脱したか」を知るために、離脱経験者に対する半構造化面接法により収集された一次データを分析し、離脱要因に関し、エビデンスに基づいた一定の理論仮説を提示することである。次に、そこで示された理論仮説に基づき、離脱時における社会支援の在り方を議論し、政策的インプリケーションの提示を試みる。</p> <p>社会病理集団離脱実態に的を絞り、一次データを収集した研究は、わが国ではなされたことがない。しかし、社会病理集団離脱者の職業社会への再統合を考えたとき、離脱者から直接収集した質的データに基づく研究は、社会病理集団という社会的世界からの離脱実態を知り、離脱者の社会復帰を促進する上で意義があると考えられる。</p>
選考委員からのコメント	<p>現在、日本の暴力団研究は新たな展開を必要としています。廣末氏の研究はその点でまさにタイムリーです。暴力団構成員に対してのインタビュー調査はかなり難しいものです。成功することを祈ります。そして犯罪社会学の本格的な研究者としてご登場いただきたい。</p>